

狭山池博物館見学会（報告）

実施日：7月14日（金）10時～

行程：南海高野線 大阪狭山市駅集合

府立狭山池博物館見学（徒歩10分余）

昼食レストイランで「古墳」についての勉強会

参加者：小林、長谷川、菊池、梶木、高城

費用：入館料無料



内容

10時半から12:20まで同館の森案内人の話をみっちり聞いた。森氏は堰樋に関する土木技術および歴史に造詣が深く大変充実した楽しい見学会であった。

① 狭山池は飛鳥時代に築造されてから1400年間改修を加えながら現役を続けてきた歴史あるため池である。



② 1400年間支えてきた堤の一部が実物大で展示されており、博物館建設の想いを感じることができる。

③ 改修の度に当時の技術水準や思想が垣間見られた。江戸時代初期の片桐且元が主導した改修では古墳を掘り起こして石棺を水路に使ったり、古い軍船の板を樋に使ったりされており 再利用が盛んであったことが偲ばれる。

④ 鎌倉時代の重源 江戸時代の片桐とも狭山池は行基が開いたとしているが 現代技術の年輪年代測定法によれば616年築造と認定された。 科学の進化に敬服するとともに古代の歴史認識の不正確さを実感させられた。

⑤ 当初 博物館の後は近隣の古墳見学を構想していたが猛暑の時期を考慮し レストランで古墳についてミニ学習会を実施した。印象に残った議論は 1) 古墳の定義がよくわからん。2) 千葉県古墳数は第4位と多いが何故なのか（奈良8位、大阪13位） 3) 現在古墳は神聖な場所で勝手に入れないが 昔は薪ひろいや家畜飼育、農業用水など生活のために利用されていたのではないか。



文責：高城